

人材派遣管理システム 「HRstation」の 安定運営をサポートする Oracle Database Appliance X8-2-HA

KDDI Evolva

サービス業

従業員数：約28,000名(2021年12月現在)

URL：<https://www.k-evolva.com/>

株式会社KDDIエボルバ
自主事業本部
自主事業推進部
自主事業推進グループ
大原 正弘 氏

自主事業本部
自主事業推進部長
佐藤 修 氏

システム開発本部
システム開発第2部
事業システム
グループリーダー
片桐 裕樹 氏

システム開発本部
システム開発第2部
事業システムグループ
課長補佐
迫川 和昭 氏



KDDIグループを中心に、auなど個人・法人のお客さま契約数6,000万超のサポート業務で培った実績・ノウハウを活かし、コンタクトセンターソリューションを中軸に「人」と「IT」を掛け合わせた多彩なサービスを展開するKDDIエボルバ。その同社が提供する人材派遣管理システム「HRstation」のデータベース基盤に採用されているのが、「Oracle Database Appliance X8-2-HA」です。約2,000社の企業に利用されているHRstationのスムーズな処理と安定した運用をデータベースの側面から支えています。

6,000万を超える お客さまサポートで培ったノウハウを活かした 人材派遣管理システム「HRstation」を提供

KDDIグループの1社であり、コンタクトセンターを中心としたBusiness Process Outsourcing (BPO) 事業をはじめ、ITソリューション事業、人材派遣事業など、「人」と「IT」を掛け合わせた多彩なサービスを展開している企業がKDDIエボルバです。自主事業本部 自主事業推進部長の佐藤修氏は、「近年では、スマートフォン上にお問合せチャネルを“見える化”するビジュアルIVRの『VisualMenu』や、AIチャットボットの導入サポートから精度向上コンサルティングまでを提供する『AIChat』など、最新技術を活用したサービス提供にも注力し、顧客接点のデジタル化を支援しています」と話します。

そうした同社の派遣事業に関する豊富なノウハウを結集したソリューションが、人材派遣管理システム「HRstation」です。その特長は、派遣先企業と派遣会社間で行われる、派遣照会から契約締結、勤怠管理、請求管理といった一連の業務を効率化できることにあります。

自主事業推進部 自主事業推進グループの大原正弘氏は、その優位性について次のように説明します。

「HRstationの導入メリットは社内の派遣社員の人数や契約内容、職種といったデータを集約、一元的に可視化できるため派遣管理の効率化が図れるだけでなく、コンプライアンス強化にも繋がられることです。そうしたメリットが評価され、約2,000社の企業に利用していただいております。管理対象となる派遣スタッフ数も、管理契約数で月間約3万件に達しています」(大原氏)

処理性能とコスト、導入の容易性を評価し UNIXサーバーを用いた基盤から Oracle Database Applianceへの移行を決断

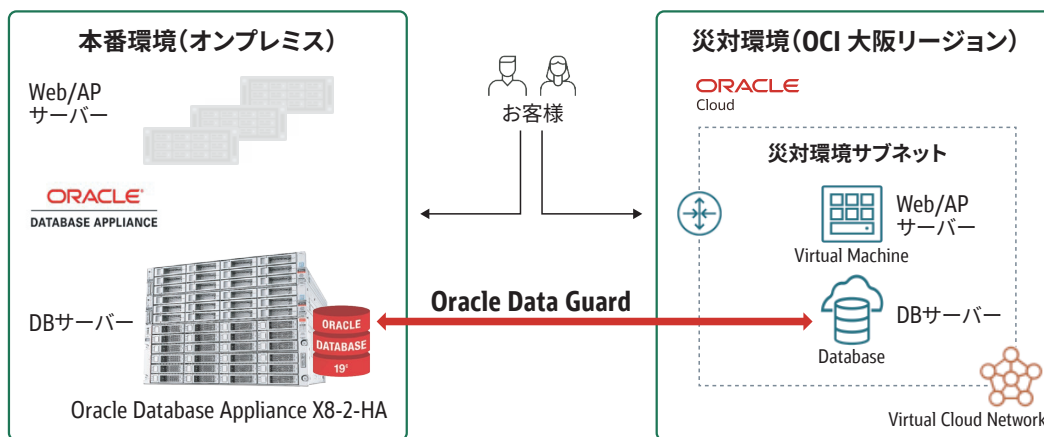
HRstationの安定したサービス運営を支え続けてきたデータベース基盤が、Oracle Database Applianceです。同社が最初にOracle Database Applianceを導入したのは2015年のこと。それまで利用していた他社製UNIXサーバーとOracle Databaseの組み合わせによるデータベース基盤からのリプレースがきっかけでした。

システム開発本部システム開発第2部 事業システムグループ 課長補佐の迫川和昭氏は、「サービス利用社数の増加に伴い、旧システムのパフォーマンスが限界を迎えようとしていました。そこでシステムの定期更改に合わせ、データベース基盤についても刷新しようと考えたのです」と当時を振り返ります。また、次期データベース基盤のシステム要件には、導入・運用コストが高額だったUNIXサーバーからの脱却も掲げられたといいます。

そこでオラクルから提案されたのが、Oracle Database Appliance X4-2でした。

「Oracle Database専用設計・開発されたハードウェアと必要なソフトウェアが組み合わされたOracle Database Applianceであれば処理性能の向上を図れると同時に、ライセンス費も含めたコストを大幅に削減できると判断、導入を決断しました」(迫川氏)

事実、Oracle Database Appliance X4-2の導入により、データベース基盤に関連するコストは前システムの約3分の1まで削減されたといいます。



HRstationの新データベース基盤の構成イメージ

システム移行の容易性を考慮し Oracle Database Appliance X8-2-HAを採用

そして2021年の定期更新を迎える中で、新たなデータベース基盤として採用されたのが後継機種の Oracle Database Appliance X8-2-HAです。迫川氏は「当初は他のIAサーバーを用いたデータベース基盤も検討しましたが、やはり移行の容易性やライセンスコストの抑制、そしてこれまでの運用で培われてきた信頼性を考慮し、Oracle Database Appliance X8-2-HAの導入を決定しました」と説明します。実際、新データベース基盤への移行はスムーズに行われ、「これまで Oracle Database Applianceの運用で蓄積したノウハウもあり、トラブルもなく僅か2か月程度で移行を完了できました」(迫川氏)といえます。

なお、近年ではサービス運用基盤のクラウド移行が一般化する中、KDDIエボルバは引き続きオンプレミスでのデータベース基盤の構築・運用を行っています。その理由について、システム開発本部システム開発第2部 事業システムグループリーダーの片桐裕樹氏は、「クラウド化は当然考えていましたが、お客様との契約上、クラウド化に伴う変更点をご理解いただかなければ移行はできません。コロナ禍により説明対応が困難だったこともあり、今回はオンプレミスでの導入に踏み切りました」と説明します。

処理性能の向上を実現するとともに サービスの信頼性も大幅に強化

最新機種の導入による最大の効果は、さらなる処理速度の

向上です。「Oracle Database Appliance X8-2-HAではストレージがHDDからSSDに進化したほか、今回、Oracle Databaseも12cから19cへとバージョンアップさせたことで、キャッシュ機能もさらに有効に働くようになっており、両者の組み合わせでディスクIOはかなり向上しているように感じられます。これにより、処理が集中する月初めのピーク時にも、より円滑な業務が行えるようになっています」と迫川氏は評価します。

このほか、さらなるサービスの信頼性を確保するための仕組みも導入されました。その1つが、データ暗号化の仕組みである Oracle Advanced Security オプションの採用です。「暗号化により、データの秘匿性が一層強化されました。なお、Oracle Advanced Securityの導入によるパフォーマンスの劣化や、アプリケーションの改修などは一切発生していません」と迫川氏は評価します。

もう1つが、BCP/DR対策の高度化です。Oracle Data Guardを活用し、オンプレミスの Oracle Database Appliance X8-2-HA をプライマリに、Oracle Cloud Infrastructureの大阪リージョンをバックアップ先としてレプリケーションを実施、万が一の障害や災害の発生時にもサービスを停止させない環境を実現しています。

Oracle Database Appliance X8-2-HAへの移行により、多くの企業によって利用されているHRstationのさらなる処理性能、および信頼性向上を実現したKDDIエボルバ。最後に片桐氏は、「今後、サービスプラットフォームのクラウド化なども検討していますが、オラクルの協力のもと、データベース基盤の構築・運用に関して多くのノウハウを蓄積できました。引き続きオラクルには、当社のサービスをさらに強化していくための支援をお願いしたいと考えています」と語りました。